令和元年度　学校評価　総括表

教育目標	一人ひとりの障害と発達をふまえ、自己の可能性を充分に伸ばすとともに、社会の一員として「清く　明るく　たくましく」生きる人間形成に努める。	総合評価
学校運営の方針	○視覚障害に特化した専門的教育機関としてセンター的機能を発揮する。 ○幼児・児童・生徒の多様なニーズを考慮した教育活動を展開する。	B

今年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標
進路担当教員の時間確保を行い連携を密にし、校内体制の充実を図る。	主体的な学びをうながす教育の創造と授業力の向上	授業改善に向け公開授業や研究授業を実施。「主体的・対話的で深い学び」を見据えた指導案の作成
活用した研修の推進を図る。	ICT活用教育の推進	ICTの機器研修や積極的な使用により、活用能力を高める。
携深と今後の課題。	理療教育の研究推進と臨床実習の充実	教育課程の見直しに伴った、指導内容の研修を行う。
動しめ含めた。	キャリア教育の充実と進路開拓の推進	進路体験実習および職場実習、進路にかかわる学習会等を企画・実施する。関係諸機関との連携をさらに深める。
広報活動の充実。	交流及び共同学習の推進	地域の学校と連携し、学習や行事での交流・共同学習を行う。
含めた設置。	運動習慣の定着と健康教育・食育の推進	学校生活全般を通し、積極的に運動や食文化に親しむ機会をつくる。
含めた設置。	防災教育の推進	防災についての関心や知識を発揮し、危機感を持って災害に対応できる指導を行う。
含めた設置。	特別支援教育に関するセンター的機能の充実	視覚支援室の機能を十分に発揮し、センター的役割につとめる。
含めた設置。	地域と共にある学校づくりの推進	盲学校や視覚障害者への理解を深める取組を進める。（学校見学会の実施・学校運営協議会設置等）
含めた設置。	合理的配慮に基づく効果的な支援の提供	適切な合理的配慮が提供されるよう関係機関との連携を深める。

評価項目	具体的目標（重点項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価
幼稚部 小学部	幼小部の教育の充実	幼児・児童の実態を把握し、視覚障害教育の研修を充実し、専門生の継承をすすめる。	B	開学主導児教指導複数の字た。見られた。	業き、野業のえ機授後後視授考係や今ての、学関議談中しやい。児路路小と室た指導、相をつ援たい。（１路視ん１支いき保連保会会学学進をる（６護機携者・会が会、らの庭。会が会、らの告広学師もと	開学主学る。しる入め保障をの的生、て学会を進進ナ生時機
		幼児・児童間の交流を広げ、主体的な学びをうながす日々の実践の充実を図る。	A			
中学部 高等部	中高部の教育の充実	生徒一人ひとりの実態を把握し、より個に応じた学習指導や生徒指導を行う。	A			
		生徒や保護者の希望を聞き、社会自立に必要な歩行学習やPC学習、作業学習など、生徒個々の自立活動を支援する。	B			
		進路カウンセリングや進路講演会などの進路学習や施設見学、職場実習など、生徒の実態に応じた進路指導を行い、卒業後の進路に結びつくように支援する。関係諸機関との連携、事業所・施設等の新規開拓、校内における進路指導の充実を図る。	A			
保健理療科 専攻科理療科	保専部の教育の充実	課題を抱える生徒への指導の充実	A	指導修即でがつた、教育の。	しきが、すでが、やい求時期。	指行修目研実習の校実る。
		国家試験合格に向けた取組	A			
		進路を見据えた実技力の養成	B			
総務	研修の充実	各種研修会、公開授業を組織的、計画的に実施し、授業力や専門性の向上をはかる。研究集録を作成する。研修ライブラリーの充実と活用の推進を図る。	B	研修授業やた。	公開施設図書、研修ライブラリーの追加を通じ利用者の利便性向上（R３年度）に向けて工夫を加える。校内行事や（略）案内の上、（略）業助員」を活用し、４月に課題」等について保護者を支援する。	転専構ど、かなる。減りな配ではよと一ら退維持深員結ら。
	育友会	育友会活動を補佐し、関係行事の調整・計画・立案に協力する。	A			
教務	教育課程等の作成	小学校新学習指導要領の導入に向けて、対応した小学部重複の教育課程の検討及び作成を行う。	A	小１習道域	学年の「課題」の計画した。特別のつ４の連携を図る。	週に学科領数を。教科内容ごとに究す載し、計画を務めた。	課題」つっ検討来て高する。	方に課程内容指型の教育課程内容類新学習２年通の制の教科科目一般講師を	課題」等いて討論保護者援する。
	新学習指導要領の研修	小学校・中学校・特別支援学校（小学部・中学部・高等部）の新学習指導要領の研修を行い、周知や図る。小学部・中学部重複における特別な教科道徳の取組について、指導内容や評価内容について検討を深める。	B							
進路指導	キャリア教育の実践	生徒・保護者の進路希望を踏まえた上でひとりひとりに望ましい勤労観を身に付けさせ将来の希望が実現できるように指導する。	A	進路実体験しし。	学習をやる考こえ一歩進めて密にする取組が必要である。	職場実習・見学を通して、社会やセンターに参加させ、自分ができた。	職業にについて深めた。	習会にについて、生徒の考えを把握し、指導の参考にする。	職業情報
	就労支援機関との連携	県内にある５カ所の障害者就業・生活支援センターと連携を図り、各地域における視覚障害者に対して必要な助言等を行う。	B							
生徒指導	生徒指導	あいさつや言葉づかいなど基本的生活習慣や態度を指導する。規範意識を身につけさせ、問題行動の早期発見・早期対応・未然防止に努める。	A	特化思	後もりもの。	未弁論大会で自分の考えを発表することができた。	特別鑑賞を通して、人の多様性を理解し、互いを認め合う態度を育てる。	少の減後、一丁寧に先ら県た深たな必い。きわ	数減ば先まるを欲校対を生くいを運充供検てなて要	報報
	文化的行事	ムフェストなしや文化鑑賞会を企画・運営し、児童生徒が学芸に親しむ機会をつくる。また本年度は盲学校弁論大会を開催する。	A							
保健体育	校内美化	日々の清掃分担や大掃除を計画し、生徒の清掃習慣の育成と衛生環境の整備を行う。	B	毎日の清掃活動において、校内の美化に努めることができた。						
	体育活動の充実	体育祭の企画・立案を行い、全校体制で実施する。幼児・児童・生徒が運動しやすい体育環境を保持する。	A							
人権教育	人権教育の充実	各学部、学年における目標・年間指導計画を作成し、学校生活全体を通して、担任を中心にクラスに応じた人権教育に取り組む。資料の提供や紹介を積極的に進める。	A	児ス	全校生徒に掲示し、迫害を受けた。	クラス講演会を実施して組織的に取り組んだ。				
	人権啓発を推進	校内の研修会（生徒対象・職員対象）を企画していく。 研究会や研修会の情報を委員会内で共有していき、校内の人権啓発に活用していく。	B							
自立活動	自立活動の充実と活用促進	自立活動講座の内容を充実させ、幼児児童生徒からの相談や情報提供の要求に応え、かつ適切な指導を行う。	A	講備	歩行、生徒の教材・教具の紹介を行い、自立活動室の環境整備や	夜間生活を将来に向けた指導を行った。	歩行、美容等多岐に整容豊かな技術を身に付けることができた。	質問や要求に応じ一密に連携を図ることができた。	徒の内研修委員会、学校運営協議会の開催や外部との連携を図ることができた。	児童生徒の環境のについて学習をよ向けた高めるための協力の体制を構築していく。
	自立活動の教材・教具の整備と点検	自立活動室の環境整備を行い、展示物の紹介を積極的に行う。	B							
情報処理	情報セキュリティの啓発	校務系パソコンの導入や新システムへの移行に対応し、情報セキュリティの強靭化をはかる。	B	学奈新応	体験会に教校つに校行研換を会行、他校じ状況に対応した。	視覚障害機器の紹介や、地域の方に視覚障害者への対応についての研修を実施した。別スいた特に生徒よりの字や本の整理を行い、学校図書館の整理を継続し、配列を工夫して利用しやすい環境整備を行う。				
	ＩＣＴ機器の情報収集と発信	研修や他校との情報交換を通して機器に関する情報収集を行い、機器更新の準備や地域の方への発信を行う。	B							
図書	読書の啓発	児童・生徒のニーズに合ったメディアで課題図書を提供し、新しい本の紹介を適宜行うことにより、読書啓発に努める。	A	児図進	ニーズに合ったメディアで課題図書を提供し、できた。	古い本の廃棄と書架の整理を継続していく。				
	館内整備	古い図書の廃棄や書架の整理を継続し、配列を工夫して利用しやすい環境整備を行う。	B							
視覚支援室	相談・支援の充実	乳幼児や高校以上の視覚障害児・者の実態把握をすすめ、教育支援の充実に努める。 新設弱視学級の支援、弱視学級卒業年度の児童・生徒への進路情報の充実に努める。	B	新握支フ	高校ョの画分た校生新ン研が校以弱ポ好評。	態総リ。	連人の一の成の。	携継携連、連ととと	連人の一の成の。	
	他機関との連携	眼科や乳幼児の医療機関、保健センター、高校や障害福祉センター、視覚障害者の会との連携を進める。	B							
学校見学・体験会	啓発の充実	参加者を広く募り、盲学校や視覚障害についての理解を深められるよう広報と内容について検討を進める。	B	内容	名がに自るも加報ての概ね内容	変えし、一に部つも定着に向けた取組を進めた。	題をアのく。ら、題かの中ら、ングのき応題ジンが者をプよいかッのて見ブとし意シュ、討ッシに一ラ対ケブに十ン			
	今後に向けての検討	第１～３回までの総括をとり、今後の継続、形態について検討する。	B							
盲学校検討	現状と課題の整理	奈良県における視覚障害教育の現状と課題の整理、これからの盲学校のあり方の検討等を行う。	B	県学	校の（学校運営協議会制度）の導入・運営に向けて検討した。	置校の把握や全国の行った。	校討会設置し、どのよう	障害教育に関して、盲学校としてどのよう	障害教育に関して、盲学校としてどのよう	
	コミュニティ・スクールの検討	地域と共にある学校づくりの推進を図り、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入・運営に向けて検討する。	B	コ営	ルた。	情報や収集。	学校運営協議会制度）の導入・運営に向けて検討した。	情報発信に向けて、学校運営協議会等を設置し運営開始に向けて検討した。	情報発信に向けて、学校運営協議会等を設置し運営開始に向けて検討した。	
学校保健	病気つにくなり	今年度は「食について」をテーマにし、偏食の改善、栄養素の理解など、各学部の実態に応じて取り組む。	A	各働養に学	応たもにを交流実の教るョンレー。	給与し献連指交流実の教るョンレー。	素だ生養んべ栄組紹介取集ど品つ食改善・提発触供理食事・出発供覚取関啓多重ね継発ら、行際つ大発を紹介や体解し実施した。	素の。活各地礼、を関、食事の覚と増食、工ら開に自にう、食よ、る識のい、材をて、示察徒た。食育は、として活用し、継続して	素の。活各地礼、を関、食事の覚と増食、工ら開に自にう、食よ、る識のい、材をて、示察徒た。食育は、として活用し、継続して	
	救急対応訓練の充実	各学部の実態に応じて訓練を実施し、緊急時の対応について確認するとともに、教員間の共通理解を図る。	B							
食育	食育の充実	給食の時間を中心に、楽しく食事をすることで、食事のマナーを身につけさせ、よりよい人間関係を築けるようにする。	B	給食視等	楽と事伝	参加ることができた。	分の考えを発表することができた。	少の減後、一丁寧に先ら県た深たな必い。きわ	数減ば先まるを欲校対を生くいを運充供検てなて要	報報
		世界や日本の郷土料理、食べ物の名前、食品に含まれる栄養について知らせ、食習慣や食文化への理解を深めると共に、健康によい食事の仕方や望ましい食習慣を身につけさせる。	A							
寄宿舎	舎生指導の充実	個々に合わせた身辺自立を目指し、舎生の見え方に応じた生活動作の指導を行い生活力を高めていく。	B	授寮	上定組携連携大連力携連はの教員生模方生震難連寮	向上を定し、新立組出寄立自助が活自地事法地難連寮	上を定し、新立組出寄立自助が活自地事法地難連寮	よせ井筒移寮今緊	伴宿寄転ろ応。寮も対。	、な要に、く必て、た。
		学校寄宿舎と連携し、共同行事の推進、また地震避難訓練等を実施し緊急時の対応の充実を図る。	B							